

■小林秀雄 評論家。若くして本格的近代批評を創始、〈敗戦〉前後に作品連発、記念碑的大作「本居宣長」に至った。

こばやしひでお

教科書疑獄・1902＝ 東京神田に生れる(2つ下の妹は高見沢潤子)。

日露戦争終・1905＝ 3歳：

大逆事件判決1911＝ 9歳：

明治天皇没・1912＝10歳：

21ヶ条要求・1915＝13歳：府立一中に入学。

大暴落・・・1920＝18歳：一中を卒業し、一高を受験するが、不合格。

原敬首相暗殺1921＝19歳：父が死去。一高に入学するが、体調をくずし、休学。

水平社結成・1922＝20歳：小説「蛸の自殺」を発表。志賀直哉に送って賞賛される。

護憲三派圧勝1924＝22歳：同人誌(山繭)を創刊。

治安維持法・1925＝23歳：一高を卒業し、東大フランス文学科に入学。中原中也の愛人と同棲。

以後、作品を次々と発表。

共産党事件・1928＝26歳：大岡昇平の家庭教師をする。東大卒業。同棲解消。単身関西に行き、志賀直哉家に入出入り。

世界恐慌・・・1929＝27歳：東京に戻り、*雑誌(改造)の懸賞評論「様々なる意匠」で文壇にデビュー。

海軍軍縮条約1930＝28歳：*1年間にわたって(文芸春秋)に文芸時評を連載、批評家としての地位を確立した。日本における本格的な近代批評は小林によって創始されたといっても過言ではない。

満州事変・・・1931＝29歳：「文芸評論」を刊行(以後、続、続々と三冊になる)。

五一五事件・1932＝30歳：明治大学に文芸科が創設され、講師となる。

国際連盟脱退1933＝31歳：林房雄、川端康成らと雑誌(文学界)を創刊。

帝人疑獄事件1934＝32歳：結婚。

芥川直木賞始1935＝33歳：長編評伝「ドストエフスキイの生活」の連載を開始し、「私小説論」で日本近代文学の特性を論じ、盛んに論争して、批評の確立と文学の社会化に力を注ぎ、プロレタリア文学崩壊後の文壇を主導。

日中戦争始・1937＝35歳：「菊池寛論」。日中戦争が勃発、「戦争について」を発表。

健保+総動員 1938＝36歳：中国に渡り、「杭州」などの現地報告を書く。明治大学教授に昇格。

中国に接したことは、日本文化の伝統についての確信を深める契機となり、「歴史について」を著す。

日米開戦・・・1941＝39歳：太平洋戦争勃発の年あたりからは、同時代文学に背を向けて古典芸術と古美術の世界に没入し、

・・・1942＝40歳：「無常といふ事」に収められた諸エッセー、「平家物語」「バッハ」「西行」などを発表。

創価学会検挙1943＝41歳：「実朝」を発表。「モオツアルト」に着手。

敗戦・・・1945＝43歳：

新憲法公布・1946＝44歳：母が死去。明治大学教授を辞任。プラットフォームから転落するが、奇跡的に助かる。「無常といふ事」を刊行。「モオツアルト」を発表。

新憲法施行・1947＝45歳：

極東裁判決・1948＝46歳：「罪と罰について」などでドストエフスキー論を深める。創元社取締役役に就任。

三大事件・・・1949＝47歳：「私の人生観」刊行。

朝鮮戦争始・1950＝48歳：「小林秀雄全集」の刊行が始まる。

独立回復・・・1951＝49歳：

マーチン事件・1952＝50歳：「ゴッホの手紙」を刊行し、

TV放送始・・・1953＝51歳：読売文学賞。

55年体制始・1955＝53歳：第二次「小林秀雄全集」の刊行が始まる。

国連加盟・・・1956＝54歳：

インスタントマン・1958＝56歳：「近代絵画」で画家の精神の劇を描き出し、野間文芸賞を受ける。次いで対象を思想に転じるが、ベルグソンを論じた「感想」は未完に終わる。

美智子妃・・・1959＝57歳：芸術院会員。

安保闘争・・・1960＝58歳：

TV宇宙中継始1963＝61歳：文化功労者に選ばれる。

東京リビック 1964＝62歳：「考へるヒント」で広く一般読者の支持を得た。

大学紛争始・1965＝63歳：「本居宣長」の連載開始。

美濃部都知事1967＝65歳：第三次「小林秀雄全集」の刊行が始まる。文化勲章を受章。

石油ショック1973＝71歳：

角栄金脈辞任1974＝72歳：

田中角栄逮捕1976＝74歳：*言葉と歴史についての思索の到達点で、日本の近代批評の記念碑でもある代表作「本居宣長」を完成。

成田衝突・・・1978＝76歳：新訂「小林秀雄全集」の刊行が始まる。「本居宣長」により日本文学大賞。

中曽根内閣・1982＝80歳：

ドイツニラント 1983＝81歳：*没し、最後の作品「正宗白鳥の作について」は未完に終わった。

新潮日本文学アルバム、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、